

2011年7月22日 RIETI BBL
『通商白書2011』より
第2章第3節
我が国の通商と経済の構造変化

経済産業省通商政策局企画調査室
任期付職員 宇多 賢治郎

本報告の流れ

1. 各種統計の収支で見る通商(3節1項より)
2. 国内の産業連関構造の変化(付注3、3節2項より)
3. 波及効果の収支と雇用(3節3項より)
4. 第2章第3節のまとめ

GDP比でみる貿易の変化

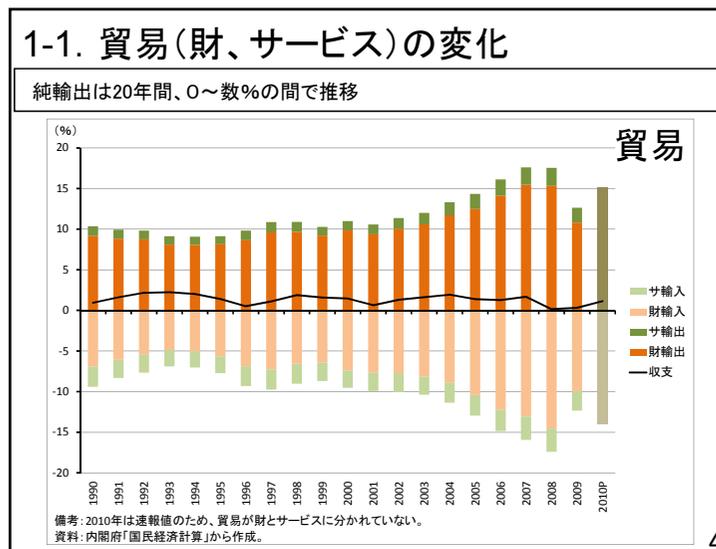
3

2章3節の目的
我が国の**経済・産業構造**を
通商を中心に分析し、
20年間の変化を国民に示すこと

本報告の流れ

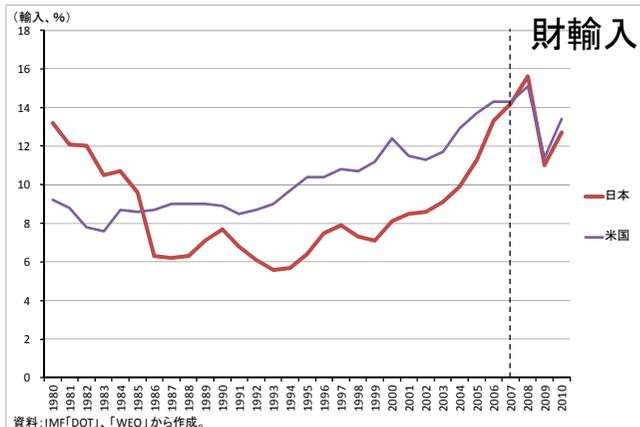
1. 各種統計の収支で見る通商(3節1項より)
2. 国内の産業連関構造の変化(付注3、3節2項より)
3. 波及効果の収支と雇用(3節3項より)
4. 第2章第3節のまとめ

2



1-2. 財貿易の比較（輸入）

我が国の輸入は、米国の輸入並みに増加



5

本報告の流れ

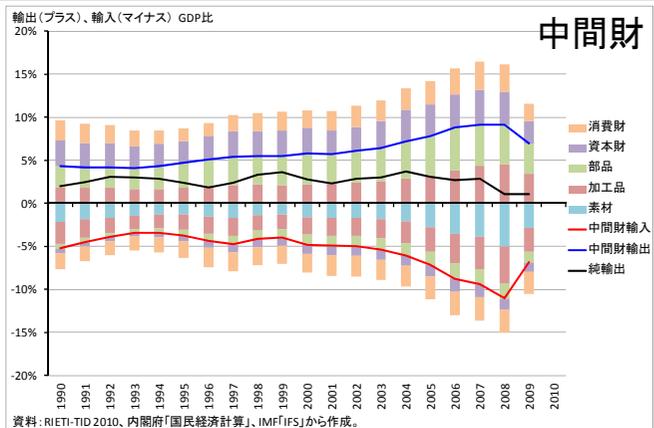
1. 各種統計の収支で見る通商（3節1項より）
2. 国内の産業連関構造の変化（付注3、3節2項より）
3. 波及効果の収支と雇用（3節3項より）
4. 第2章第3節のまとめ

波及効果で見る国内の構造変化

7

1-3. 加工度別の財貿易の変化

中間財貿易の増加 → 最終財、加工度の高い中間財の輸入の増加



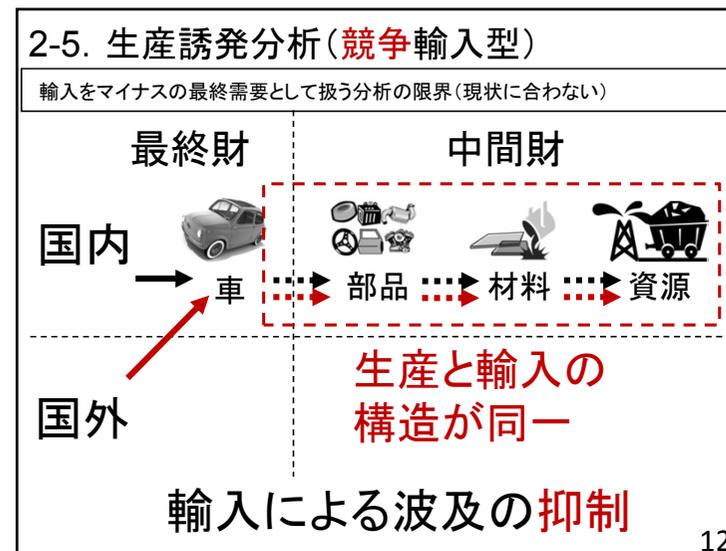
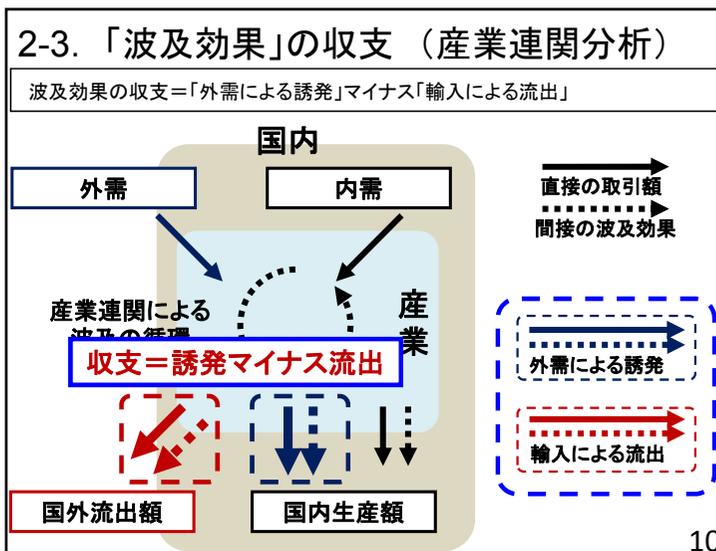
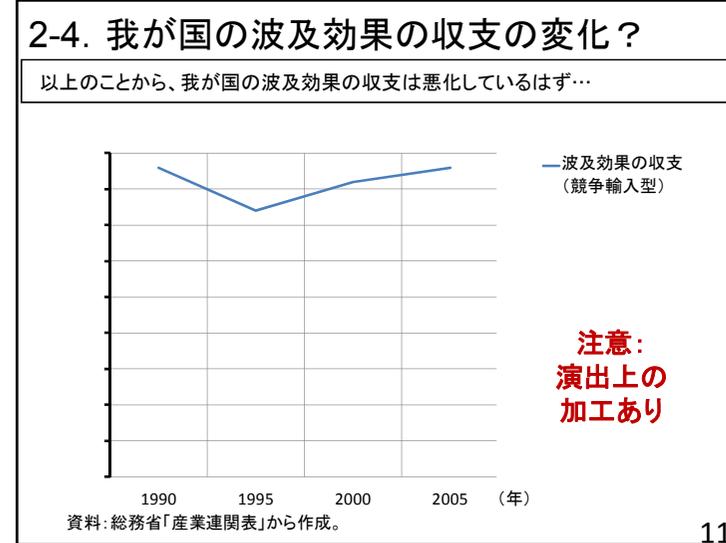
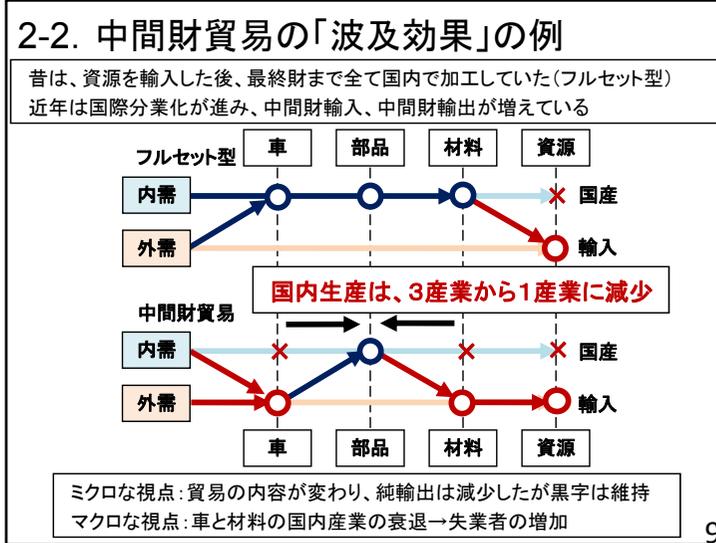
6

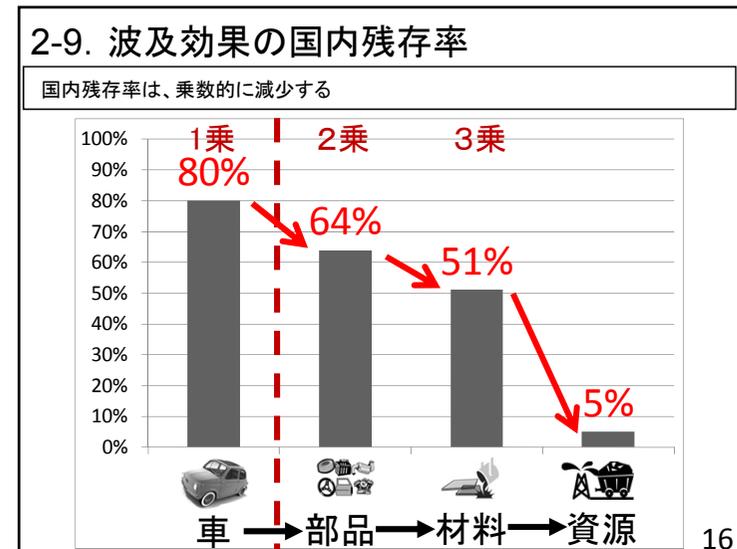
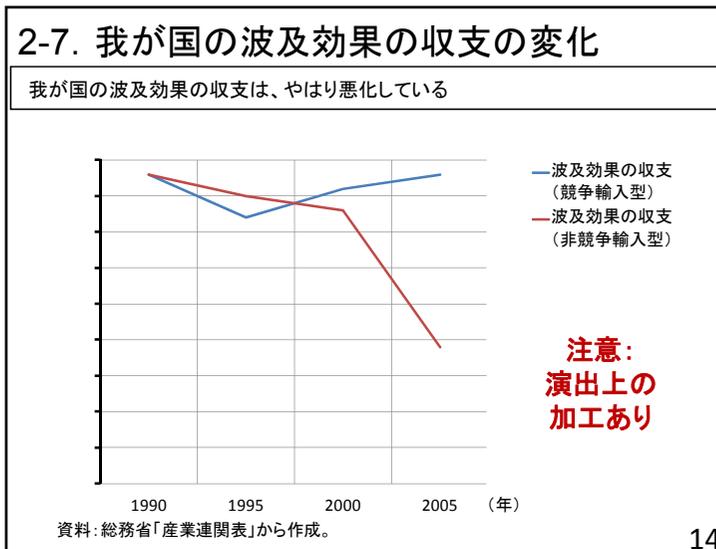
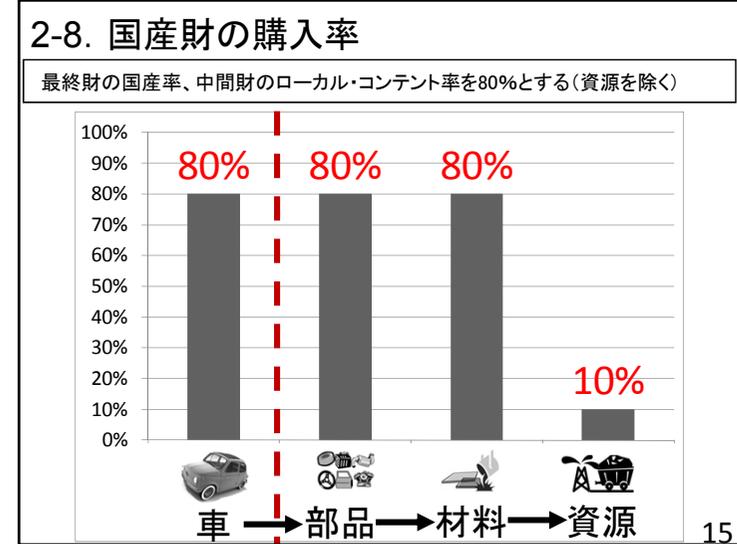
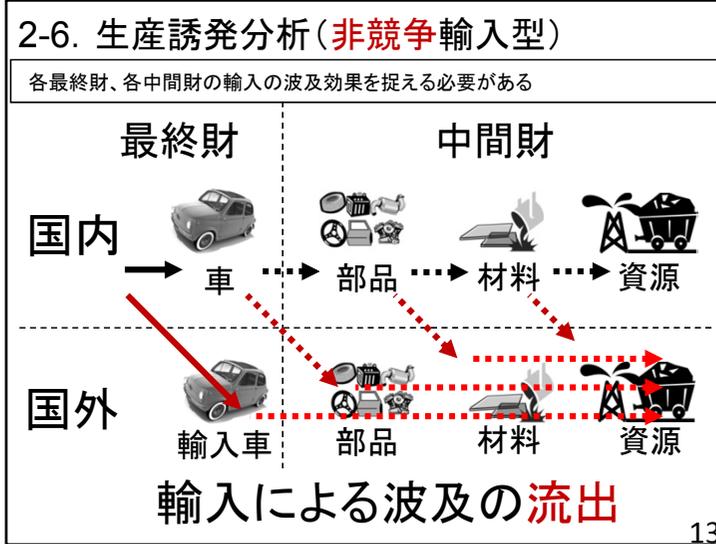
2-1. 波及効果の流れ（共通例）

産業連関構造により、最終財、中間財生産の連鎖が生じる



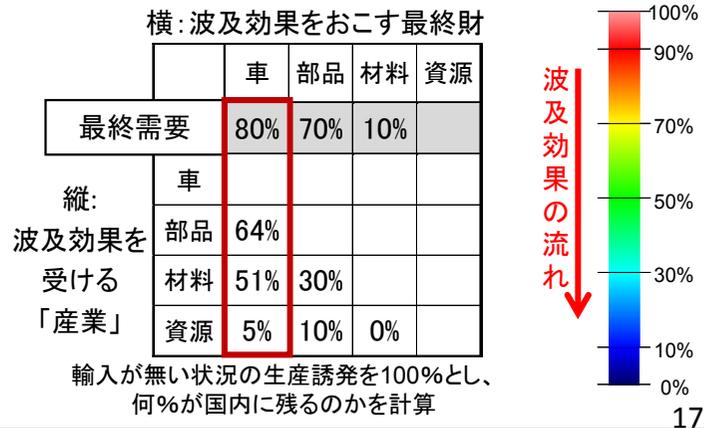
8





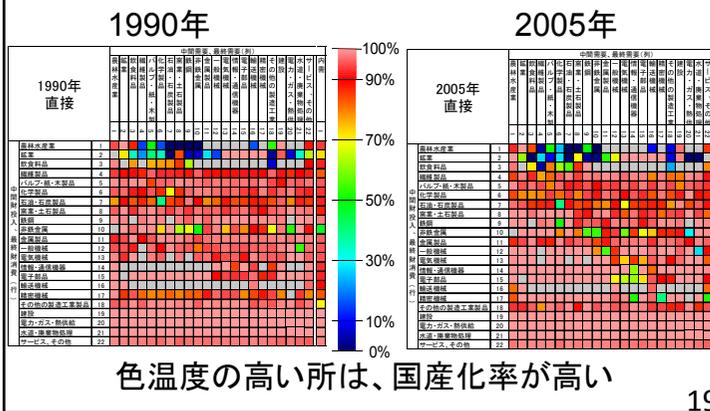
2-10. 国内残存率の行列表記

前スライドの数値例を縦に表示、他部門の値も追加して行列に



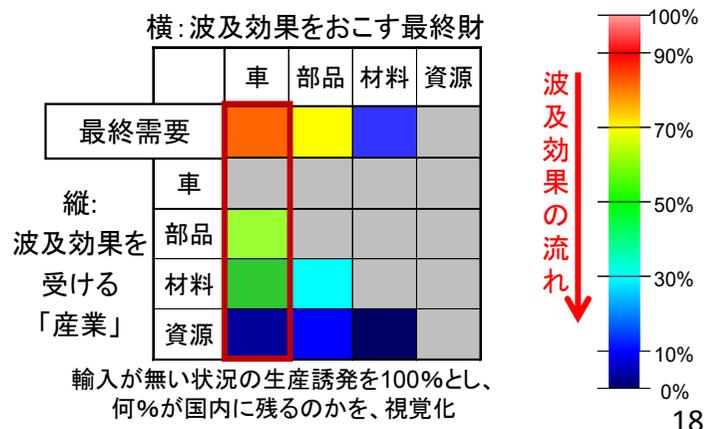
2-12. 参考：輸入構造の視覚化

各最終財消費、中間財投入における、国産化率を視覚化
大きな変化はないように見える…



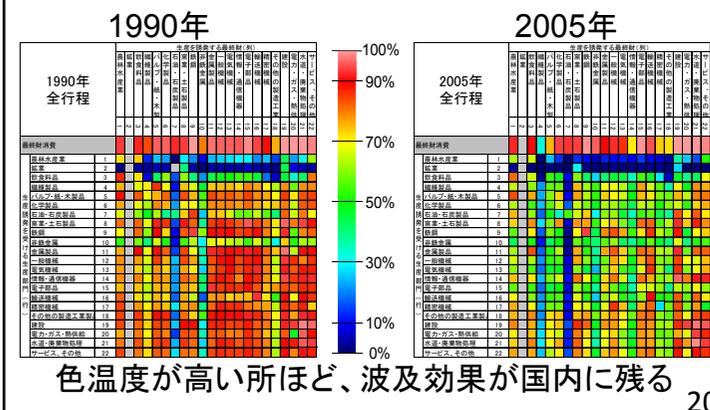
2-11. 国内残存率の行列の視覚化

行列、表では把握しきれないので、サーモグラフィの表現で視覚化する



2-13. 国内の産業と波及の構造

輸入の増加により、国内の産業連関構造が弱体化し、
波及効果の流出しやすい経済構造に変化したことが分かる



本報告の流れ

1. 各種統計の収支で見る通商(3節1項より)
2. 国内の産業連関構造の変化(付注3、3節2項より)
3. 波及効果の収支と雇用(3節3項より)
4. 第2章第3節のまとめ

国内の波及効果と雇用需要の過不足

21

3-2. 「波及効果」の変化の要因分解

2005年を、1990年の貿易構造のまま2005年の産業構造になった場合と比較

(「波及効果の収支」と「内需による波及効果」の比、%)

備考: 「貿易1990」は、2005年を基本に、輸入係数と輸出の構成比を1990年に変更。(輸出の国内最終需要比、%)
資料: 総務省「産業連関表」から作成。

23

3-1. 我が国の波及効果の収支の変化?

我が国の波及効果の収支は、2005年に赤字に突入

資料: 総務省「産業連関表」から作成。

22

3-3. 参考: 国内労働市場の変化

1992~2002年まで失業率は増加(1997年前後で要因が異なる)

備考: 就業者数、労働力人口、生産年齢人口の値は1980年の値との差分
資料: 総務省統計局統計調査部国勢統計課「国勢調査報告」「我が国の推計人口」「人口推計年報」から作成

24

3-4. 通商(輸出)の雇用への影響

1990～2005年に、輸出率は1.5倍になっているのに、失業率は2.3%増加した

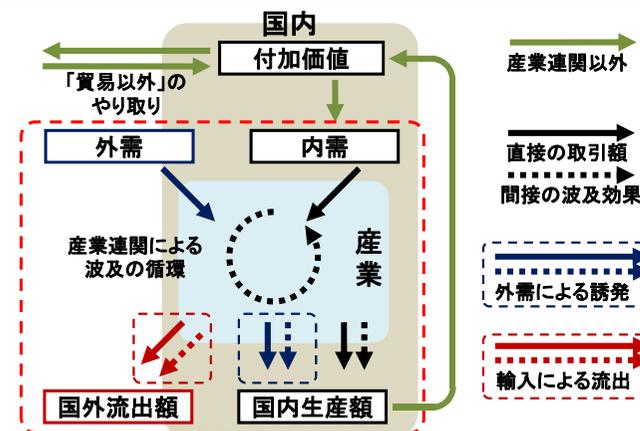
	輸出率	失業率
1990年 ◆	10.8%	2.1%
1995年 ◆	9.3%	3.2%
2000年 ◆	11.1%	4.7%
2005年 ◆	14.6%	4.4%
1990年水準	20.7%	2.1%

2005年に輸出の増加によって、失業率を2.1%(1990年水準)まで下げるなら、内需比で輸出を6.1%増やす必要がある(1990年の2倍の輸出が必要)

25

4-1. 「波及効果」の流れ

「貿易」だけでなく、「貿易以外」のやりとり、他国との国際分業のあり方も課題



27

本報告の流れ

1. 各種統計の収支で見る通商(3節1項より)
2. 国内の産業連関構造の変化(付注3、3節2項より)
3. 波及効果の収支と雇用(3節3項より)
4. 第2章第3節のまとめ

経常収支の黒字と波及効果の収支の赤字
→雇用需要の不足

26

4-2. 第2章第3節のまとめ

明示、確認した事項

- 間接の波及効果や構造変化は見えにくい
→ Data Miningにより明示
- 合成の誤謬の深刻さを確認
 - ミクロ(経営)の合理的判断 → 国体の弱化
 - 社会規模よりも経済規模のほうが縮小が早い
- マクロ(経世在民)な視点の必要性の再確認
→ 国際分業が、国内経済を利する構造の再構築

28